

マンスリー・ハイライト 拝啓社長殿

マネジメントのための経営財務情報

第556号 この資料は全部お読みいただいて70秒です。

今回のテーマ： 2016年 IPO 実績の総括

2016年（暦年）のIPO実績は対前期比減少に

2014年の「Gumi ショック」と言われる新規上場（IPO）直後の大幅な業績下方修正の事案を皮切りに、その後、毎年のようにIPO後間もない企業で様々な問題が立て続けに発生しました。こういった事態を踏まえ、2009年以降温まり始めたIPO市場が冷めてしまうのではないかと不安を抱えながらも、日本のIPO市場は、2015年までIPO実績を伸ばしてきました。しかし、【表1】のとおり、2016年は減少に転じ、86社となりました。

また、直近5年間における市場別IPOの実績では、一貫してマザーズへの上場数が多く、ほぼ毎年、過半を占めています。マザーズに次いで多いのが、ジャスダック・スタンダードとなっています。また、業種別で見ると、情報・通信業及びサービス業が継続して上位2業種を占めており、無形のサービス産業がIPOを支えていることが読み取れます【表1】。

【表1】市場別・業種別IPO実績の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
マザーズ	23社	29社	44社	61社	54社
ジャスダック・スタンダード	14社	11社	11社	11社	14社
東証第1部	2社	6社	10社	8社	8社
東証第2部	5社	6社	10社	9社	5社
その他	4社	6社	5社	9社	5社
合計	48社	58社	80社	96社	86社

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
情報・通信業	10社	11社	24社	25社	25社
サービス業	14社	17社	18社	26社	24社
上位2業種 合計	24社	28社	42社	51社	49社
上位2業種 割合	50.0%	48.3%	52.5%	52.0%	57.0%
小売業	7社	8社	10社	11社	8社
その他	17社	22社	28社	36社	29社
合計	48社	58社	80社	96社	86社

お見逃しなく！

2016年において、IPO実績が減少に転じた一因として、「上場審査が厳しくなったからではないか」というような声を耳にすることもあります。果たして、そうなのでしょうか。【表2】は、年度別の日経平均株価（当該年度の高値と安値の単純平均）とIPO実績との推移を重ねてみたものです。

両者には、相関関係があるようにも見受けられます。市場相場感が大きく影響している可能性も否定できません。

【表2】市場別IPO実績の推移
